



生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

第8号

ニュースレター

2003. 7.25

CONTENTS

夏だ！まつりだ！みんなおいでよ、生物多様性まつり！！	1, 6
2003年の生物多様性情報システム (J-IBIS) 更新について	2
図書資料閲覧室利用について	2
ウミガメの保護を考える	3, 4
みんなの広場	5
センターの動き・来館者	6

夏だ！まつりだ！みんなおいでよ、生物多様性まつり！！

生物多様性センターでは、自然に親しんでもらい、生物多様性について理解してもらうために、毎年夏の時期に「生物多様性まつり」として、各種イベントを行っています。

今年も下記の予定で行います。内容も盛りだくさんご用意して、皆さまのご来場をお待ちしております。

●日時：8月10日（日）9：00～17：00

●場所：生物多様性センター（案内図：P. 6）

●対象：どなたでもご参加いただけます

●参加費：無料

（一部保険料のかかるプログラムも有ります）

●主な催し物

（一部事前予約の必要なプログラムも有ります）

- ・標本作製講習会
- ・プロジェクトワイルド体験会&自然観察会
- ・ドクター・トミー生きものライブトーク「つながる生命」
- ・はく製・標本特別展示
- ・館内オリエンテーリング

詳しくは6ページ（ウラ面へ）

Biodiversity Center of Japan
生物多様性まつり 2003

☆☆ 本くてコシが強い！一度来たらやみつきになるよ！！☆☆

とき：2003.8.10 日
時間：9:00～17:00

●●● 未知の世界へようこそ！センター標本ゾーンを探検！！

～希少な標本の特別公開と、昆虫・植物の標本作製を体験しよう～
この標本ゾーンを体験すれば・・・
君も標本のスペシャリストになれるぞ！！

●●● プロジェクトワイルド体験会&自然観察会

ゲームなどを通して、生物の多様性や生態系を学べる環境教育プログラムの体験会です。あわせて行う自然観察会で、富士山周辺の自然を五感で感じてみよう！！

●●● ドクター・トミー生きものライブトーク
「つながる生命」

ドクター・トミーこと富田京一氏による、楽しいライブトークです。恐竜の話から始まり、生きもの進化と生態系のかかりについて、わかりやすく楽しく語っていただきます。

お申し込み、お問い合わせは：
環境省 生物多様性センター
http://www.biodic.go.jp/
〒403-0005
山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾559-7
TEL:0555-72-6033
FAX:0555-72-6035
メールアドレス: event@biodic.go.jp

詳しくは裏面をご覧ください

2003年の生物多様性情報システム(J-IBIS)更新について

生物多様性センターでは、日本の自然環境、生物多様性に関する情報を収集・管理・提供するためのシステムとして「生物多様性情報システム(Japan Integrated Biodiversity Information System: 略称J-IBIS)」を1998年より公開していますが、同システムを2003年6月末に一部更新いたしました。

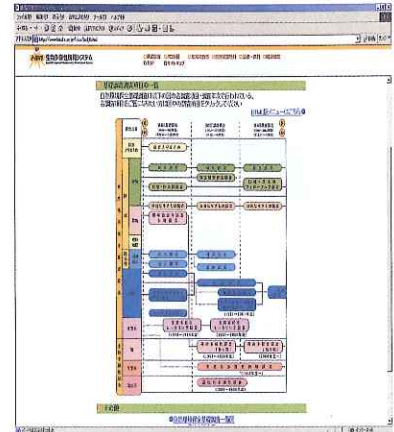
■生物多様性情報システムのURL: <http://www.biodic.go.jp/J-IBIS>

◆今回の更新のポイント

1. 自然環境保全基礎調査のページの更新

J-IBISの開設当時から中核コンテンツとして、皆様にご利用頂いていた自然環境保全基礎調査のページですが、一部の記述が古いままであるとともに、「調査の全容が掴みにくい」、「操作方法がわかりづらい」など、検索を行う上での問題がありました。

そこで本更新では調査の説明に関する記述を大幅に更新するとともに、自然環境保全基礎調査に詳しく無い方にも全容が掴め、必要な情報が得られるように、全体の使い勝手を改良いたしました。



自然環境保全基礎調査のページ

2. 身近な林のページの追加

2000年～2001年にかけて一般ボランティアの皆様のご協力で行われた身近な林調査の調査成果をデータベースにまとめました。

なお、身近な生きもの調査については次のホームページをご覧ください。調査の方法を記した「調査のてびき」や参加者の皆様にお配りした調査結果(報告書)がご覧いただけます。

■身近な生きもの調査のURL: <http://www.biodic.go.jp/mijika/>

←身近な林のデータベースのページ

3. 生物多様性情報クリアリングハウスメカニズムの試験運用を開始します。(2003年7月末頃を予定)

生物多様性情報クリアリングハウスメカニズム(生物多様性に関する情報源情報の検索システム)の試験運用を2003年7月末頃に開始いたします。

なお、生物多様性情報クリアリングハウスメカニズムについては以下のホームページをご覧ください。

■「クリアリングハウスメカニズムとは」URL: <http://www.biodic.go.jp/convention/chm/chm.html>

図書資料閲覧室利用についてのご案内

生物多様性センターでは、ひろく一般の方々にもご利用いただける図書資料閲覧室があります。この閲覧室には、現在2万冊余りの自然環境関連の書籍が所蔵されており、その内容は主に自然環境保全基礎調査報告書、省庁発行者、都道府県調査報告書、辞典・辞書類、一般書、洋書、博物館報告書、逐次刊行物となっています。また、子供たち向けの書籍(エコ文庫)も開架しています。

自然環境保全基礎調査報告書では、第1回から第5回まで(一部第6回)の植生調査、動物分布調査などの報告書や植生図を閲覧していただくことができます。また環境省RDB(レッドデータブック)や、各都道府県発行のRDBも閲覧していただけます。

閲覧室の利用は平日の午前9時から午後5時までとなっており、だれでも閲覧する事ができます。ご利用の際は1階窓口はその旨を伝えていただき、名簿に氏名と住所を記入し、手荷物を預けていただくと、係のご案内いたします。

みなさんもこの夏休み、静かな森の中で小鳥の声を聞きながら読書してみませんか?



自然環境保全基礎調査報告書



図書資料閲覧室

ウミガメの保護を考える

—浅海域生態系調査・ウミガメを指標とした生態系調査の実施を通して—

菅 沼 弘 行 氏

- ・エバーラスティングネイチャー会長
- ・IUCN（国際自然保護連合）種の保全委員会ウミガメ専門委員
- ・国際ウミガメ学会理事

(1) 調査の概要

第6回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)として実施された「浅海域生態系調査・ウミガメを指標とした生態系調査」の報告書を今回まとめた。調査は1998年と1999年に30都府県において実施されたものである。

ウミガメ類は世界に7種生息しているが、そのうち日本で産卵がみられる種は原則としてアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種である。2002年にオサガメの産卵が初めて確認されている。今回の環境省が実施した調査に、アカウミガメは、茨城県から沖縄県までの太平洋岸の県と石川県以南の日本海側の県において、過去に産卵がみられたという記録がある。今回は調査されていないが、アカウミガメの北限の産卵地は福島県である。アオウミガメは東京都の小笠原諸島、鹿児島県の島嶼部、沖縄県で記録されている。タイマイは沖縄県と鹿児島県の徳之島で記録されている。日本は、アカウミガメの北太平洋で最大唯一の繁殖地である。しかし、今回の調査により、日本全体でその繁殖数は減少傾向にあることが分かった。地域によっては、すでに産卵がみられなくなったところもみられる。この減少の要因は、護岸工事による埋め立てや、離岸堤や突堤などにより海岸の砂が減少

し、産卵に適さなくなった海岸の増加、海岸付近の道路開設や照明、花火やたき火による産卵阻害やふ化稚亀の海に入る行動への阻害、漁業による混獲、ふ化率低下や性比の偏りを招く人工ふ化の弊害などが考えられている。

(2) 不適切なウミガメの移植と放流会の例

すでに日本各地においてウミガメの保護を行っている個人や団体が数多くあるが、その手法は様々である。中でも移植を保護活動として行っている地域がいくつかある。移植を行う場合、世界的に認知されているのは、明らかに高波が被る場所の産卵巣、繁殖地のほとんどの産卵巣が食害によって破壊され、移植以外に保護する方法がない場合に限られる。日本ではあまり例はないが、国によっては一つの繁殖地の産卵巣が根こそぎ盗掘されるようなところは移植を行っているが、このような特例を除き、盗掘を理由に移植を行うべきではないのではなからうか。なぜならば、移植は卵を一ヶ所に集めることになり、地温で性比が決定するウミガメ類は、人為的に性比を偏らせることになるからである。また、移植時の卵の転卵は卵を死亡させることになる。食害や高波の害が無い自然の産卵巣のふ化率は80-90%であり、もし移植のふ化率がこれよりも大幅に低い場合は、移植はするべきではない。日本の自然ふ化率の調査例はそれほどないが、ふ化率は60-90%の範囲である。今回の報告書では、移植のふ化率が40-50%という繁殖地が多かった。また、学校教育の一環として移植を行っているところもあるが、ウミガメの資源動向を無視した移植は決して教育的なものではないことに留意する必要がある。移植をする場合は少なくとも、自然ふ化率の調査を数年間充分に行ってから、実施するべきである。



ふ化稚亀の行動を阻害する大規模な放流会などの行事が自然保護や教育啓発の名目で実施されているところもあるが、この行動阻害はふ化稚亀の生存率を下げているのではないかと考えられる。稚亀はふ化後数十時間、フレンジと呼ばれる行動をする。この行動は、手足をばたつかせ、ひたすら沖に出ようとする行動である。放流会のための数日間の飼育は、この行動を人為的に消失させている。また稚亀は、約10日間は胎内の卵黄で栄養をとることができ、沖に出て餌場や休息場となる流れ藻がある潮目にたどり着く可能性高めているが、数日間の飼育はその可能性を低めている。さらに稚亀が産卵巣から海に入る間(走光性)、沖に出る間(波に垂直、磁場)、沖に出た後(磁場と流れ)の3つのパターンにおいて、稚亀の方向性を確定する方式がそれぞれ違っている。従って昼間の放流会や人手による放流では、稚亀が生存していくためのこれらの能力を損なっている可能性も高い。

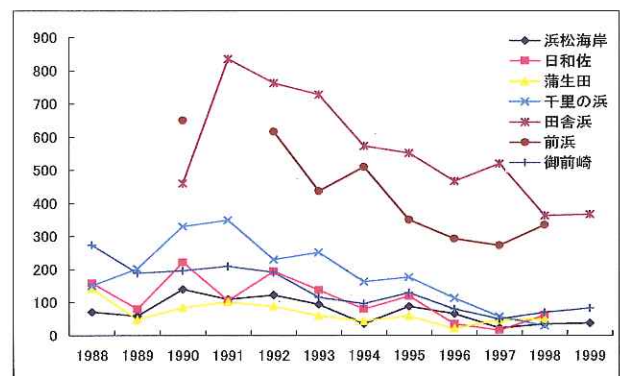
しかし、最近では漸く自然ふ化率の調査を実施したり、移植を行わなくなったりしているところも少しずつではあるが増えてきている。また放流会も自粛しているところもある。

(3) 今後の調査及び保護に向けた提案

ウミガメ類は、沿岸区域や海岸そのものの自然度を表す重要な一つの指標生物である。環境省にとって初めてのウミガメ類の調査であるが、取りまとめが大幅に遅れ、指標としての役割が薄れるのは否めない。本来ならば、5年ごとくらいに同様の調査を継続し、日本のウミガメ資源の動向を知ることが最も重要である。すでに日本のアカウミガメは、調査時点において主要産卵地では10年間で60%も減少しており、積極的な保護策を実施することが求められているが、その対策もまだ検討されていない状況である。早急に全国的なモニタリング及びウミガメ資源回復のための対策が求められている。民間では、特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会が各地の個人や保護団体とネットワークを利用し、全国的なウミガメ類の調査や保護活動を行って

るが、そのような組織と行政が連動し、日本のウミガメ類を保全するための具体的な行動が必要である。

米国では、内務省と海洋漁業省にウミガメコーディネイターというウミガメ専門の担当官がおり、ウミガメ保護に関して連邦議会に議案を提出できる権限を持っている。また、産卵地においては一般の人はウミガメに触ることができず、もし産卵上陸したウミガメが海に戻れない場合など、ウミガメ専用の電話回線があり、ウミガメ専門のレスキュー隊が出動し、ウミガメの救助を行っている。また、各地に民間や政府のウミガメリハビリセンターがあり、場合によっては外科手術まで行い、個体の快復を待って放流している。さらにウミガメの生存を脅かすエビ底曳きなどの漁法は、トロール網にウミガメ排除装置を設置することが義務づけられており、ウミガメ資源の保全に対処している。このウミガメ排除装置は、莫大な予算を使い、5カ年の試験を重ねて米国政府により開発されたものである。当然のことながら、日本とは行政のシステムが違うので、これをそのまま取り入れることはできないが、環境省として北太平洋で唯一のアカウミガメの産卵地である日本において、ウミガメ類の保護を真正面から取り組んでもらいたいものである。また、国内のウミガメ類を保全することは、日本の海岸の保全にも繋がることになる。そのためには国土交通省や農林水産省などとも連携し行政機関の枠を取り外さなければ、日本のウミガメ類の保護は困難であることにも留意してもらいたい。



日本の主なアカウミガメの産卵巣数の年変化
(自然環境保全基礎調査より)

みんなの広場



ミヤマガマズミ (03.07.09)
ガマズミとの違いは、葉の光沢、若枝・葉の毛の量の違いから。秋につける赤い実は、古くは染料として使われた。”ずみ”はこの”染”が訛ったものと言われる。真夏の低山地に咲く白い花は爽やかな風とともに今日もそよぐ。



雪崩後の富士山 (03.06.09) ひと冬の自然の驚異に人々は愕然とする。

富士北麓の風物



「吉田の火祭り」

昨年の夏の思い出として、印象深いお祭りがある。それは、毎年8月26日の夜、富士吉田市で行われる吉田の火祭りである。

日本三大奇祭のひとつに数えられる勇壮な祭りであると聞き、親子三人で富士急行に乗り、祭り会場へと向かった。

会場では、気合いとともに次々と大松明に火がともされ、赤々と夜空を照らすように燃え上がった。燃え上がる炎は、男性の荒々しさと女性の芯の強さを現しているようだ。

「この火が燃えさかると同時に富士山登山は終わりを告げるのかしら。」

妻はポツリと言った。

「そうだね、この火祭りにはこんな由来があるんだ。」

と私は話し出した。

富士山には、木花咲耶姫という神様がいた。その夫にニニギの命というとても短気な神様がいた。ニニギの命は、ありもしない木花咲耶姫の浮気話に腹をたてて、姫の産屋に火を点けてしまった。もうすぐ赤ちゃんができる姫は、自分の潔白を夫に信じてもらおうと燃えさかる産屋の中に入り、元気な赤ちゃんを出産した。

姫の勇気と貞操の清らかさを讃えるために、木花咲耶姫を祭神とする富士浅間神社では、毎年、姫に捧げる祭りとして火祭りを行うようになったと伝えられている。

「見て、あのカップル。松明に祈りを捧げている。女性はお腹が大きいみたい。」

妻は、炎の向こう側の二人を見て微笑んだ。

「木花咲耶姫が産まれるといいね。」

と私。パチパチと音をたてて燃え上がる松明。この祭りに多くの人々は、何に感謝し祈念するのだろうか。縁日の香ばしい匂いが祭りを盛り立てているようだ。

「ママ、綿菓子買って」

我が家の三歳の木花咲耶姫がおねだりをした。

追伸

この地方は蛾が多く、村中で火を燃やし、殺虫の意味も兼ねた生活の知恵から生まれた祭りと伝えられています。

参考文献 富士の昔ばなし

(ゆ)



「生物多様性まつり2003」の詳細

＊催し物のご案内＊

標本作製講習会
 <無料・申し込み制・各コース20名・所要時間:90分>
 ～標本をつくらう～
 昆虫コース
 午前: 9:15～クワガタ 対象:小学生低学年
 午後: 13:15～セミの抜けガラ 対象:小学生高学年
 植物コース
 午前: 9:15～海藻 対象:小学生全学年
 午後: 13:15～海藻 対象:小学生全学年

プロジェクトワイルド体験会&自然観察会
 <参加費:50円(保険料)対象:小学生低学年
 申し込み制・各コース20名・所要時間:90分>
 ～センター周辺の自然を五感で感じよう～
 各コース:1回目 11:00～ 2回目 13:30～

ドクター・トミー生きものライブトーク
 「つながる生命」
 ～WELCOME★富田ワールド～
 <無料・申し込み制・定員80名>
 講演時間:15:00～16:00

講師プロフィール:
 富田 京一(とみた きょういち)
 主に、ほろ類・両生類・恐竜のフィールドワークを行う。
 現在は、小学館学習雑誌やビーバルの連載など、
 生物の知識普及に力を注ぐ。

天然記念物
 オオウシに会えるよ♪



標本特別展示 <随時受け付けます>
 普段は入れない収蔵庫に、特別に招待!
 センターが所有している、絶滅してしまおうな動物たちの
 はく製や、チョウやトンボなどの貴重な標本を一堂に公開します!

館内オリエンテーリング
 スズクちゃんを探して問題に答えながら、
 館内をめぐるゲーム。
 インターネットも使えます。



お申し込み、お問い合わせは:
 環境省 生物多様性センターイベント実行委員会
<http://www.biodic.go.jp/>
 〒403-0005
 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
 TEL:0555-72-6033
 FAX:0555-72-6035
 メールアドレス: event@biodic.go.jp

◆**標本作製講習会**
 毎年恒例の標本作製講習会。今年はクワガタムシとセミの抜けガラ、海藻の標本を作製します。標本作りにも挑戦してみよう!

◆**プロジェクトワイルド体験会&自然観察会**
 ゲーム感覚で楽しみながら、生物多様性や生態系を体験的に学べる環境教育プログラムの体験会です。あわせて行う自然観察会で富士山周辺の自然をふれあいます。

◆**ドクター・トミー生きものライブトーク「つながる生命」**
 児童向け雑誌でおなじみのドクター・トミーこと 富田京一さんのトークライブです。恐竜の話から始まり、生きものの進化と生態系のかかわりについて、わかりやすく熱く語っていただきます。

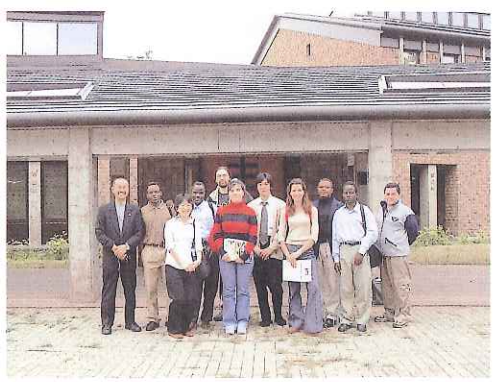
◆**はく製・標本特別展示**
 毎年恒例のトキやイリオモテヤマネコが収蔵されている特別標本収蔵庫へご案内します。また、今年は標本ゾーンを設けセンターが収蔵する標本を一堂公開します!

◆**館内オリエンテーリング**
 聞き慣れない生物多様性ってなんだらう?というキーワードをもとに館内を探ろう!

※イベント内容について下記 URL でも紹介しています。
<http://www.biodic.go.jp/event/2003/>

センターの動き 2003年5月～7月

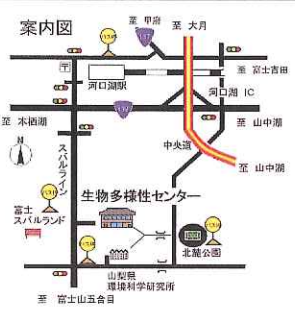
- 5 / 1 多様性センター展示室土日オープン開始
- 5 / 7～8 藻場調査検討会
- 6 / 2 JICA「湿地環境及び生物多様性保全」研修
- 6 / 13 「田んぼの生きもの調査2003」現地研修会
- 6 / 24 全国巨樹・巨木林の会理事会
- 6 / 25 植生図入札
- 6 / 26～27 全国ほたるサミットあぐい
- 7 / 10 JICA「メキシコカウンターパート」研修
- 7 / 11 自然環境保全基礎調査検討会鳥類分科会開催



6月2日 JICA 研修がありました

来館者 2003年5月～7月

静岡大学増沢教授ほか、大勢の見学の方にお越しいただきました。ありがとうございました。



発行：環境省自然環境局生物多様性センター
 〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
 電話：0555-72-6031 FAX：0555-72-6032
 URL：<http://www.biodic.go.jp/> e-mail：newsman@biodic.go.jp

